

第1学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「あいうえおで あそぼう」 教材名「あいうえおで あそぼう」

2 単元の目標

平仮名を読み、書くことができる。（〔知識及び技能〕(1)ウ）

平仮名の並びと音の響きを確認め、言葉遊び歌を楽しむ学習の中で、言葉への関心をもち、自分の取り組みを見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①平仮名を読み、書いている。 （〔知識及び技能〕(1)ウ）	①この教材単独では記録に残す評価を行わず、関連する言語活動の単元で見取る。	①平仮名の並びと音の響きを確認め、言葉遊び歌を楽しむ学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確認めながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

平仮名の並びと音の響きを確認め、言葉遊び歌を楽しむ。この教材では、音の並びと集めた言葉、その意味の記録を残し、言葉をどう使ったか、どう捉えたかが分かるようにする。公式年間計画は知識・技能に重点を置く短い教材としている。本案でも本時は知①を中心に記録し、思考・判断・表現をこの教材だけで独立して評定する扱いにはしない。

（2）児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

（3）指導について

教科書の音の並びを声に出し、既習の文字から始まる言葉を集める。思い出しにくい児童には身近な物の絵を示し、同じ音で始まるか確かめる。想定する難しさは、五十音の順を唱えるだけで語の意味や音との関係を見ない。評価では、平仮名を読み、書いているかを、音の並びと集めた言葉、その意味の記録と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

5 指導と評価の計画（全3時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○相手と話す目的を確かめ、聞いて知りたいことや話す材料を出す。教科書の言葉遊び歌を手元で音読する。	学習状況を見て支援する。
第2次	2 （本時）	○教科書の言葉遊び歌を手元で音読する。音の並びを確かめ、既習の言葉を用いた短い独自の並びを試して聞き合う。選んだ言葉を平仮名で書き、文字の順と発音を対応させて読み返す。	知①（発言・活動中の記録・作成物）
第3次	3	○対象の言葉や文字をもう一度使い、確かめたことが別の例でも生かせるかを試す。学習前後の記録を比べて、確かめたことをまとめる。	態①（学習前後の記録と見直しの理由）



6 本時の指導 (2/3)

(1) 本時の目標

平仮名を読み、書くことができる。(〔知識及び技能〕(1)ウ)

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	相手と話す目的を確かめ、聞いて知りたいことや話す材料を出す。 ○「同じ音から始まる言葉を続けると、どんな響きになりますか」 【めあて】平仮名の並びと音の響きを確かめ、言葉遊び歌を楽しむ。 〈予想される児童の反応〉 ・同じ音から始まる言葉を集められる。	最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。
展開 (分)	○「同じ音から始まる言葉を続けると、どんな響きになりますか」 教科書の言葉遊び歌を手元で音読する。音の並びを確かめ、既習の言葉を用いた短い独自の並びを試して聞き合う。選んだ言葉を平仮名で書き、文字の順と発音を対応させて読み返す。 対象の言葉や文字をもう一度使い、確かめたことが別の例でも生かせるかを試す。 〈予想される児童の反応〉 ・同じ音から始まる言葉を集められる。 ・声に出すと音の並びを確かめやすい。	教科書の音の並びを声に出し、既習の文字から始まる言葉を集める。思い出にくい児童には身近な物の絵を示し、同じ音で始まるか確かめる。 想定する難しさ：五十音の順を唱えるだけで語の意味や音との関係を見ない。 評価では、平仮名を読み、書いているかを、音の並びと集めた言葉、その意味の記録と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。 ◎知① 平仮名を読み、書いている。(発言・活動中の記録・作成物)
まとめ (分)	【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。 音の並びと集めた言葉、その意味の記録を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・声に出すと音の並びを確かめやすい。	教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確かめる。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。 ◎態① (最初と最後の記録、見直しの理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「同じ音から始まる言葉を続けると、どんな響きになりますか」。中央は、音の並びと集めた言葉、その意味の記録に必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

